26　　吉野山の鬼　　助動詞⑪　まし・まほし・たし・ごとし

この鬼涙にむせびながら申すやう、「我は、この四五百年を過ぎての昔人にて候ひしが、人のために恨みを残して、今はかかる鬼の身となりて候ふ。さてその敵をば、思ひのごとくに取り殺してＡき。残りなく取り殺し果てて、今はア殺すべき者なくなりＢぬ。されば、なほ彼らが生まれ変はりまかる後までも知りて、Ⅰ取り殺さんと思ひ候ふに、次々の生まれ所、つゆも知らＣねば、取り殺すべきやうなし。かかる心を起こさざらましかば、極楽、天上にも生まれＤなまし。敵の子孫はⅡ尽き果てぬ。我が命はきはまりもなし。かねてこのやうを知らましかば、かかる恨みをばイ残さざらまし」と言ひ続けて、涙を流して泣くことウ限りなし。

【本文チェック】

①　ア～ウの用言の、活用の種類（動詞は活用の行も）・文中での活用形を書きなさい。

　ア（　　　　　活用　　　　形）　　イ（　　　　　活用　　　　形）

　ウ（　　　　　活用　　　　形）

②□Ａ～Ｄの助動詞の、文法的意味・文中での活用形を書きなさい。

　Ａ（　　　　　・　　　　　形）　　Ｂ（　　　　　・　　　　　形）

　Ｃ（　　　　　・　　　　　形）　　Ｄ（　　　　　・　　　　　形）

③傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、書きなさい。

　Ⅰ（　　　　　　　　　　　　　　　）

　Ⅱ（　　　　　　　　　　　　　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　敵〔２〕（　　　　　　）

２　極楽〔５〕（　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　されば〔３〕　①（　　　　　　　　）

　　　　　　　　　②そもそも・いったい

　　　　　　　　　③さて・ところで

２　やう〔５〕　　①様子

　　　　　　　　　②理由

　　　　　　　　　③（　　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　木の葉にもるるのしづくならでは、つゆおとなふものなし。（徒然草）

　ア　少ししか（～ない）　　イ　まったく（～ない）

　ウ　たくさん　　　　　　　エ　いくらか

　（　　　）

２　この世にののしり給ふ光源氏、かかるついでに見奉り給はむや。（源氏物語）

　ア　あのような　　イ　そのような

　ウ　どのような　　エ　このような

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ごとし | たし | | まほし | | まし | | 基本形 |
| （　　） |  | （　　） |  | （　　） | （　　） |  | 未然形 |
|  |  |  |  |  | ○ | | 連用形 |
|  | ○ |  | ○ |  |  | | 終止形 |
|  |  |  |  |  |  | | 連体形 |
| ○ | ○ |  | ○ |  |  | | 已然形 |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 命令形 |
|  |  | |  | |  | | 意味 |

問５　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　といふことなからましかば、いかにいぶせく、（枕草子）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　ただ思ふ事とては、出家ぞしたき。（平家物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　あをによし奈良の都は咲く花のにほふがごとく今さかりなり（万葉集）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【古典常識】

問６　『宇治拾遺物語』は世俗説話集であるが、その中には仏教説話に分類される作品も含まれている。仏教説話の中で、「仏道修行を経て極楽往生を遂げる」ために重要だと考えられたことを、次から一つ選べ。

ア　仏からご利益を授かること

イ　俗世でのあらゆる執着を断つこと

ウ　家族や親戚を大切に守ること

（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝サ行四段・終止　イ＝サ行四段・未然　ウ＝ク・終止

②　Ａ＝過去・終止　Ｂ＝完了・終止　Ｃ＝打消・已然　Ｄ＝強意・未然

③　Ⅰ＝取り殺そうと思いますが　Ⅱ＝すっかりいなくなってしまった

問１　１＝かたき　２＝ごくらく

問２　１＝それだから　２＝方法

問３　１＝イ　２＝エ

問４　（まし）　ましか・ませ ｜ ○ ｜ まし ｜ まし ｜ ましか ｜ ○

　　　　意味＝反実仮想・ためらいの意志・実現不可能な願望

　　　（まほし）　まほしくまほしから｜ まほしくまほしかり｜ まほし○　　｜ まほしきまほしかる｜ まほしけれ○　　　｜

　　　　意味＝願望

　　　（たし）　たく　たから｜ たく　たかり｜ たし○　｜ たき　たかる｜ たけれ○　　｜

　　　　意味＝願望

　　　（ごとし）　ごとく ｜ ごとく ｜ ごとし ｜ ごとき｜ ○ ｜ ○

　　　　意味＝比況・例示

問５　１＝反実仮想・未然形　２＝願望・連体形　３＝比況・連用形

問６　イ

【現代語訳】

問３　１　木の葉に埋もれている懸樋のしずく（の音）以外には、まったく音を立てるものもない。

　　　２　世間で評判になっていらっしゃる光源氏を、このような機会に拝見なさってはいかがだろうか。

問５　１　もし、手紙というものがなかったなら、どんなに気がふさがって、

　　　２　ただ思うこととしては、出家がしたい。

　　　３　奈良の都は花が美しく咲き誇っているように、今（繁栄の）真っ盛りであるよ。